

## 第8回日展

### 第5科（書） 特選授賞理由

題名 作者名  
定家 月のうた 岩井秀樹

#### 授賞理由

特選作では唯一の卷子本である本作。文字が集団となりやがて消えゆく様は、このタイトルのように雲間の月の如き美しさである。多様な秀作が揃った仮名作品の中、格調ということでは一つ抜き出た傑作といえる。

明星上 大田鵬雨

#### 授賞理由

筆者は、「明末清初」の書風を自家薬籠中のものとし、気迫に満ちた書きぶりは見事である。この作品の魅力は、濃墨を用い、渴筆と渋みをうまく生かし、さらに余白をよく利かした誠に美しく格調の高い逸品である。

多聞 鹿倉碩齋

#### 授賞理由

殷周時代を基としながら、金文を現代感覚溢れる作とした。強い線と余白の対比を字画の多寡で際立たせる大胆な構成が見事で、多彩な線の表現が立体感と流動美を生み出した作品といえる。

春日野 河合鷹山

#### 授賞理由

万葉のうた三首を横に展開、自然な書き振りで書き出し、山場、結びの景色を演出、墨の潤濁、線の太細を交じえながら伸びやかにまとめあげた。要所要所の直線と控えめの墨量が生き、書品の高さを感じさせる秀作である。

李商隱詩 時崎五鳳

#### 授賞理由

明清時代の行書書体の作品で、小気味よく運筆し、リズム感があり明るく仕上げられている。切れ味鋭く力強い線條が全体を引き締めている。要所に大小、潤濁を巧みに交え、流動感も表現された秀作である。

題名 作者名  
朝川渡る 豊原睦子

#### 授賞理由

平安時代のかな古典和泉式部集の表現方法を大字かなに応用、墨の変化と共に多様な線を駆使、凜とした余白の美しい作品に仕上げた。行と行との響き合いも見事で、書面に緊張感漲る完成度高い作である。

微風 西村大輔

#### 授賞理由

とりわけ古典の無い調和体分野においては表現過多や奇をてらったものが目立つが、この作品はあくまで自然を宗としている。王羲之の聖教序を基にし、強く深い線質が見事である。今後の調和体の指針になる作品である。

白川の 馬場紀行

#### 授賞理由

墨量や疎密の変化、書線の黒と余白との対比等、古筆が内包する美的要素を基盤としながら、大胆さの中に繊細さを秘めた運筆、快いリズムや速度感は見事で、壁面芸術としての大字仮名の一つの形を示す秀作となった。

蘭亭集詩より 松村博峰

#### 授賞理由

徐渭の筆法を根底におきながら、字形は扁平で独自の造形美を表現し、横作品に相応しく見事に布置している。後半への盛り上がりにより、リズムカルな運筆が心地よい響きとなっている。魅力的な秀作といえる。

變則通 真鍋井蛙

#### 授賞理由

此の作品は、清朝篆刻の開祖である鄧石如の作風（小篆体）に学び、新しい内容を加えて印に仕上げた作品である。印文の一行目は變字を一字にし、變字両側の糸字の脚を長々と生かしているのが、作品を伸々と感じさせ、成功した。